

関の山車会館 (Seki Float Museum)

関宿祇園夏まつりは、関神社の宗教的な祭礼です。1700 年頃に始まり、現在も毎年 7 月中旬に 2 日間にわたって行われています。この祭りの特徴は、「やま（漢字で mountain car と書かれる）」と呼ばれる背の高い山車を使うことです。町が最も栄えていた 19 世紀には 16 基の山車が使われていましたが、現在その数は 4 基に減っています。その 4 基のうち、2 基は関の山車会館に展示されています。

これらの二階建ての山車には、高さ 6m、重さ 6 トンを超えるものもあります。彫刻が施されたどっしりとした土台部分はカシ材、上部はケヤキで作られています。山車を曳くための棒をどの向きにも取り付けられるようになっており、また、山車の上部は進行方向に応じて回転させられるようになっています。できるだけ立派に見えるように作られている山車は、幅 3 メートルほどしかない道路に 2.5m もの幅をとり、通り過ぎる家々の軒よりも高くそびえながら曳かれていきます。

山車は関宿町内の地域組織に所属します。関の山車会館に展示されている 2 基は、中町四番町と木崎町のものです。金箔と漆で装飾され、和紙でできた市松模様の屋根がついている中町四番町の山車は、豪華絢爛です。中町四番町に比べると背が低くやや飾り気がないものの、木崎町の山車は占める面積が広く、前面に大きく張り出した囃子方の舞台がついています。

館内には、4 地域の山車保存会の衣装や、絵があしらわれた提灯、山車の後方や側面を飾る刺繍入りの重厚な幕など、祭りで使われる小物類も展示されています。

祭りの実際のビデオ映像を視聴することもできます。この映像には、山車の上部を高速で回転させる中、囃子方が音楽を奏で、灯のともった提灯が激しく振り乱れる「舞台回し」の様子も収められています。また、北浦の山車の二階に乗っている、束ねた笹を持つ神職のからくり人形（古風な人型のロボット）も見応えがあります。

関の山車会館の開館時間は火曜から日曜の午前 9 時から午後 4 時 30 分までです。関の山車会館、関宿旅籠玉屋歴史資料館、関まちなみ博物館の 3 館共通入館券を購入すると割引が適用されます。